●いなみ野台地ゾーン

―水利開発の歴史を凝縮した淡山疏水―

播磨灘の浸食作用によって形づくられた「いなみ野台地」の中央に位置しています。播磨平野の東部にあって、ため池が密集する田園地帯として有名です。東から西へ緩やかに傾斜した台地が続き、加古川支流の草谷川が北部を、曇川が南部を西流します。農業用水の多くを 120 余の点在したため池に依存しています。

なかでも加古大池は県下最大のため池で、総水面積約 49ha、灌漑面積 324ha を誇ります。

写真④

●ゾーンの歴史

このゾーンのため池築造の歴史は古く、なかでも天満大池は兵庫県で最も古いため池といわれています。その原型となる岡大池は白鳳 3 年（675）に築造されたと伝えられており、池の北側には天満神社があり、10 月中旬に行われる祭りでは、天満大池に“御輿を投げ入れる”神事が行われています。

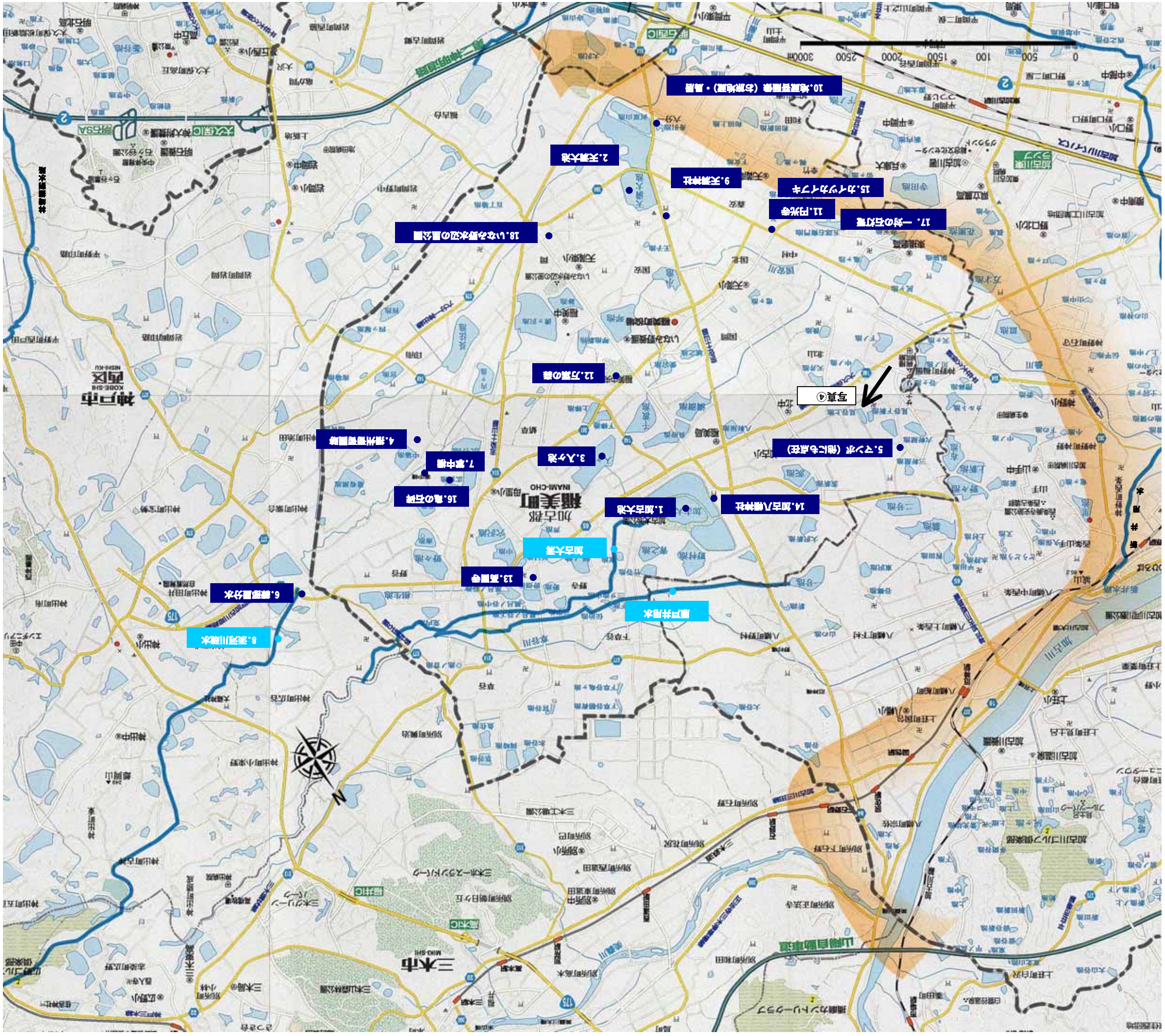
また、ため池にまつわる伝説も多く、最も古いものが「入ヶ池伝説」で、和銅 7 年（714）藤原光太衛は夢告に従い、六枚屏風の堤を築き、美女を人柱にして池を完成させたと伝承されています。この美女の名が「入（にゅう）」であることから、入ヶ池と呼ばれています。

戦国期が終わり江戸期に入ると、戦国時代に発展した築造技術を用いて河川からの水利活用やため池が築造されるようになりました。また、人口の増加に伴い新田開発が盛んになり、さらに多くのため池等が築造されました。

明治 6 年（1873）の地租改正を契機として疏水工事が進められ、一気に新田開発が広がりました。この疏水工事には、日本初の逆サイフォン工法の採用や斬新なアーチ橋に見られるように、当時の最先端技術が導入されています。

■淡河川疏水練部屋分水工

■加古大池



10.地蔵盛園像（お地地蔵）・鳥居
2.天満大池
9.天満神社
15.カイツカイフキ
11.円光寺
17. 一対の石灯寝
18.いなみ野水辺の里公園
12.万葉の森
写真④
4.福州西園碑
7.寒中橋
3.入ヶ池
5.マンボ（他にも点在）
16.亀の石碑
1.加古大池
14.加古八幡神社
加古大湯
13.高屋寺
6.鎌田屋分水
8.渡河川疏水
屋戸井用水

●ゾーンの主な見どころ

	資源（展示物）	所在地	概　　要
1	加古大池	稲美町加古	江戸時代前期の 1660 年、新田開発と共に平地に堤防をめぐらせて築造。貯水量が県下最大、全国 3 位（甲子園球場の約 12 倍）を誇る。水面に島があり、弁天様が祀られている。ヨシなどの水生植物や多様な野鳥が観察でき、カヌーやセーリングなどのスポーツが楽しめる。
2	天満大池	稲美町六分一	県下最古のため池であり、白鳳 3 年（675 年）に天満大池の原型である岡大池が築造された。県下第 2 位の貯水面積（甲子園球場の約 8.5 倍）を誇る。絶滅危惧種に指定されているアサザ（水草）が自生し、天満大池祭りでも知られる。
3	入ヶ池	稲美町北山	奈良時代前期(714 年頃)に築造されたと伝えられている。6 枚屏風形に折り曲げた特徴のある堤防の形状をなし、池にまつわる「お入伝説」で知られる。
4	播州葡萄園跡	稲美町印南	国家プロジェクトとして造られた、官営播州葡萄園（明治 13 年～21 年）の跡地。
5	マンボ	稲美町加古	疏水工事と前後して、稲美町と周辺の台地にはマンボとよばれる地下水路が掘られた。
6	練部屋分水（ねりべや）	稲美町	稲美町の近くまで流れてきた水は、練部屋分水所で一度分水所の下をもぐり、中央からわき上がり、各地域に公平に分けられ、それぞれの地域へ流れていく。流れていく水の量は、各地域の田畑の面積にあうように工夫されている。
7	掌中橋（てなか）	稲美町印南	掌中橋は山田川疏水の水路橋として、1914 年に完成した印南地区の歴史を物語るアーチ型のレンガ橋で長さ 5.3m、水路幅 0.6m、高さ 2.5m。
8	淡河川疏水（おうご）		志染川流域南西に位置する印南野（現在の稲美町）は水利が悪く、開発が遅れていたため、明治に入ると、淡河川から取水して志染川を石橋で越え、印南野に疏水を渡す計画が立てられた。これが淡河川疏水で、イギリス陸軍少将ヘンリー・パーマーの設計のもと 3 年かけて 1891 年（明治 24 年）に竣工した。
9	天満神社	稲美町国安	祭神は菅原道真、弁財天、池大明神で、昔、菅原道真公がこの地に立ち寄られたという話が残っている。室町時代の天神曼荼羅が町指定文化財で、社殿の裏の杉の切り株に羽柴秀吉の社殿取り壊しを中止させた「大蛇の話」が残っている。
10	地蔵菩薩像（お旅地蔵）・鳥居	稲美町	高さは 1.5m ほどあり（平成 13 年の文化財修理事業で判明）、足の下部が地下に埋まっているので全体での大きさは不明。お堂の前の鳥居も町指定文化財に指定されており、約 800m 北にある天満神社に正対して設置されている。この鳥居は、素朴で古様な形状をしており、室町時代から江戸時代に移る途中の形式のものと思われる。
11	円光寺	稲美町中村	743 年に行基が開いたと伝えられる真言宗のお寺。本尊は阿弥陀如来で、他に空海の署名のある弁財天、室町時代の地蔵菩薩などがある。となりの墓地には町指定文化財の五輪塔がある。
12	万葉の森	稲美町国安	稲美町は古代より万葉集に詠まれた“いなみ野”の中心にあり、この万葉の森は当時のいなみ野と瀬戸内海を形造った日本庭園。約 120 種類の万葉植物や、「いなみ野」が詠まれた歌碑、庭が一望できる「憩いの館」などがある。
13	高園寺（こおんじ）	稲美町野寺	毎年 2 月 9、10 日には町指定文化財に指定されている鬼追式が行われる。
14	加古八幡神社	稲美町加古	延宝 8 年（1680）造営。毎年 10 月 10 日に祭札が行われている。
15	カイヅカイブキ	稲美町中村	円光寺境内にあり、高さは約 7m で、樹齢は 350 年～400 年と推定されている。町指定の天然記念物。
16	亀の石碑	稲美町蛸草	明治 30 年広谷池増築を記念して建てられた。亀の石像が印象的である。
17	一対の石灯篭	稲美町中一色	道標の役目も果たしていた灯籠。天満神社に奉納していた歴史を持つ。曇川近くにある。
18	いなみ野水辺の里公園	稲美町岡	跡池の水辺に隣接する公園で、隣に陸上競技場がある。

■掌中橋

■播州葡萄園跡（醸造場跡）

■練部屋分水

■天満大池（天満大池祭り）

■亀の石碑